

平成 28 年度 事業報告

平成 28 年度は、World Rugby が掲げている 5 つのコアバリュー（品位：integrity・情熱：passion・結束：solidarity・規律：discipline・尊重：respect）に則り、ラグビー競技の普及・強化を中心に取り組んで参りました。

普及面においては、漸減傾向にあった登録プレーヤー数(+2,879 人)、チーム数(+7 チーム)、コーチ数(+1,846 人)およびレフリー数(+109 人)が増加いたしました。また、タグラグビーが小学校学習指導要領に明示されることになるなど、裾野の拡大に努めました。加えて、安全対策における講習会を各都道府県で実施するなど、指導を強化いたしました。

強化面において、男子 15 人制のテストマッチは 6 勝 5 敗という結果になりましたが、男子 7 人制はコアチームへの昇格、オリンピック・パラリンピックリオデジャネイロ大会で 4 位に入賞いたしました。女子 15 人制は 4 大会ぶりのワールドカップの出場権を獲得、女子 7 人制は今年度コアチームから降格しましたが、次年度は返り咲くこととなります。トップリーグにおいても、レベル向上による好試合が続いており、次世代を担う若手が台頭して参りました。また、スーパーラグビー参戦 1 年目は 1 勝 1 分け 15 敗と厳しい結果となりましたが、代表クラスの選手の底上げという成果には繋がっております。

事業面においては、ラグビーワールドカップ 2015 イングランド大会の活躍を受け、前年度は観客数が 92 万人を超えたため、本年度は「観戦者数 100 万人」という高い目標を掲げ、取り組んで参りました。しかしながら、前年度増加したファン層を安定的に取り込むことができず、トップリーグで 3 万人、高校で 2 万人減少し、90 万人弱という結果になりました。

財政面においては、予実管理を月次で行い、加えてマーケティング収入の極大化を図り、対予算で 2 億 49 百万増加したことから、4 億 35 百万円の黒字となりました。

次年度につきましては、2019 年を見据えて普及・育成環境の継続的かつ早急な整備、各代表および各リーグの強化のために、技術面でのさらなる強化、フォーマットの再検証、新たなスポンサーやファン層の獲得などを中心に、今般見直しを行った戦略計画を着実に遂行していく所存です。また、ラグビーワールドカップ 2019 日本大会の成功に向けて、組織委員会との更なる連携強化を推進して参ります。

以上